

藤医会

藤医会会報

藤田医科大学医学部同窓会

2023年1月発行 年2回発行



表紙 | 新しく生まれ変わった藤田学園キャンパス・藤田医科大学病院の全景
～東側から眺めて～

藤医会・・・

本学医学部卒業生（正会員）と大学院医学研究科卒業生（大学院卒業会員）ならびに在学学生（学生会員）により運営されている同窓会組織です。1978年に第一回目の医学部卒業生の誕生と同時に設立されました。設立の目的は「会員相互の親睦と交流を図り、母校の発展と医学・医療の振興に貢献すること」にあります。おもな活動には会誌の発行、会員名簿の作成、教育・学術講演会の企画、懇親会の開催などがあり、会員間の情報交換の促進をはかり、親睦を深めることに寄与しています。そのほか、在学学生の学習環境の整備と課外活動の充実を目的とした援助をおこなっております。今後も、会員サービス、後進の支援、母校への協力を三本の柱として活動していく予定です。

目次

藤医会の活動のご紹介	P2
日本医師会常任理事就任のご挨拶	P3
医学部総合消化器外科科学講座の臨床教授を拝命して	P4
医学部 外科・緩和医療学講座の臨床教授を拝命して	P5
医学部産婦人科学講座教授を拝命して	P6
お知らせ・開業おめでとう	P7
藤田医科大学医学部創立50周年記念式典・祝賀会	P8
藤医会総会・教授就任記念講演会・祝賀会	P8
藤医会の正・副会長の任期 告示	P8



藤医会の活動のご紹介

藤医会 会長

黒田 誠 (1回生)

新型コロナウイルス感染症の第8波でいまだに医療界は混乱が継続していますが、藤医会会員の皆様には各々の分野でご尽力をされていることと推察いたします。

本学医学部は1972年に創設して2022年で創設50周年を迎えることとなり、学園では様々な行事が計画されています。また長年の懸案であった総長先生の銅像の除幕式も無事に終了いたしました。

振り返ってみますと同年には、自治医科大学、埼玉医科大学、金沢医科大学、愛知医科大学、兵庫医科大学、福岡大学医学部が誕生しています。それぞれが独自の形で発展をして持ち味の異なる医学部に成長をしています。本学医学部は建学の理念「獨創一理」の元、目覚ましい発展をしてきていることは会員の皆様のご承知の如くであります。

さて私が第6代の藤医会会長を拝命して4期8年が経過しようとしています。同窓会は大学と卒業生の橋渡しができる唯一の存在ですので大学の現状を正しくお伝えし、会員からのご意見、ご要望を大学にお伝えして歯車がうまく噛み合うような活動をしていかななくてはなりません。特に学外に出て久しく、最近の大学の状況が把握しにくい会員の皆様に分かりやすく正確な事実をお伝えすることに心掛けております。現在の執行部の活動の現状をご紹介します活動内容にご理解をいただければ幸いです。

まずは名簿の発刊ですが、当初から無料で毎年発刊してきましたが卒業生が増えるのと同時に2年に1回の発刊に変更をさせていただいております。個人情報の取り扱いには慎重を期しておりますが、50年が経過いたしましたので今後の発刊につきましては検討中でございます。

また私どもの執行部は支部訪問に力を入れてまいりました。可能な限り私も含めて複数名で多くの支部を訪問して対面でお話をさせていただき、大学との距離が縮まるように努力をしてまいりました。しかしこの3年間はコロナ禍で支部訪問が全くできておらず、早い復活を祈念しております。

同様に開催が延期または中止になっていますが西日

本私立医科大学同窓会連絡会、全国私立医科大学同窓会連絡会に出席して私立医科大学の動向を把握させていただき、良いところは本学同窓会にも取り入れるべく努力しております。

同窓会館の設立はいまだ叶いませんが学園から同窓会室をお借りできています。定期的に執行部が同窓会室に集まり執行部会議事を進行しておりましたが、コロナ禍になってからは平日の夜にZoomを使用して毎月1回実施しております。年末には理事会を、その翌年の2月に総会を開催し、その際に教授に昇任された卒業生の先生方の記念講演会も開催しております。本号でも昇任された先生方のご紹介ができて大変うれしく思っております。また既に多くの先生方が、医師会でご活躍をされておられますが、本年は4回生の細川秀一先生が日本医師会の常任理事に就任されました。本号でもご紹介をさせていただいております。特筆すべき快挙と思います。

50年は大きな節目になりますので会員の先生方には更なるご支援を賜りますことを切にお願いする次第でございます。以上のような内容を機関紙(夏号、冬号)として発刊いたしておりますのでご拝読いただけましたら幸甚に存じ上げます。

先生方の益々のご発展、ご健勝を祈念させていただき藤医会会長としての巻頭言とさせていただきます。





日本医師会 常任理事就任の ご挨拶

日本医師会常任理事

細川 秀一（4回生）



2022年6月25日より日本医師会常任理事に就任しました、1981年卒業（4回生）の細川秀一です。現在日本医師会において、救急災害医療、医療安全、環境保健、労災・自賠責、検案等を担当させていただいております。

2024年には診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等のトリプル改定も控えており、全世代型社会保障の構築に向け、医療界におけるDXや医師の働き方改革など、医療界には直面する課題が山積しています。

藤医会の皆様は医師として、診療に明け暮れておられることと思います。一方で、医師に求められるのは目の前の患者さんを助けることだけではありません。例えば、病気を予防し、多くの人が健康に暮らせるようにすること。病気になったら、いつでもどこでも適切な医療を受けられるようにすること。医療提供体制を整えるよう、国や地方自治体に働きかけること。一人一人の医師が、知識や技術を存分に高め、安心して診療に従事できるような仕組みを作ること。これらのことを、中心になって行っているのが医師会です。

私も実際に、担当しております救急災害医療の分野において、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害など、現地に赴き被災者の健康支援などを行ってまいりました。

様々な社会活動への参加により、医師としての見識も広がります。自分の守備範囲をできるだけ広げ、専門分野や所属する組織の仕事だけではなく、外に出て多彩な活動に関わっていただきたいと思います。例えば勤務医であれば基礎研究や教育、開業医なら学校医・産業医・予防接種・一次救急・看護学校の講師など、できる限り自分の領域を増やしていただきたいと思います。

そして、地域に根差して診療している医師は、自らの分野の診療のみならず、地域住民の健康を守るために連携して活動を行い、それぞれの地域を面として支えています。医師会はそうした活動を支え、深く関与して運営しています。

国民が必要な時に必要な医療を受けられるようにするためにも、地域に

根差して診療をされている先生方には深く感謝いたしますとともに、引き続きご協力を賜りたく存じます。

医師会は、専門職としての医師を様々な角度から支援するとともに、国民の生命と健康を守るために、幅広く活動しています。その実態を若い先生方にもっと知っていたき、医師会を通じて地域や社会に貢献する活動を共にしていただきたいと思っています。

未来の医師会、そして未来の医療をより良いものにするためにも、ぜひ若い先生方の声を私たちに届けていただきたいと考えております。

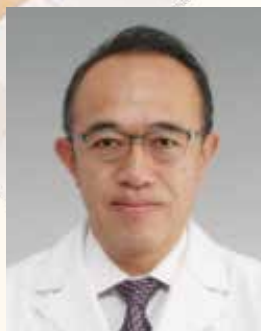
このため、日本医師会では、2015年度から臨床研修医の会費無料化を実施しています。さらに2023年度からは、会費減免期間を医学部卒業後5年まで延長し、この5年の間に、若い先生方にも医師会が果たす社会的役割の大きさや医師会活動の重要性への理解を深めていただくよう努めて参る所存です。

また、2024年度より医師の働き方改革が開始されますが、「地域医療の継続性」と「医師の健康への配慮」の2つを両立することが重要であり、両者のバランスが取れているか常に振り返ることが大切です。

日本医師会はすべての医師を代表する団体であり、藤医会の先生方はじめ、より多くの先生方と共にわが国のより良い医療を実現する所存です。そして、地域医師会、病院団体等の関係団体との連携に努め、皆様のご意見を伺いながら、信頼される医師会を目指して参りたいと思います。

そのためにも、藤医会の先生方のご支援は不可欠だと考えております。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。





医学部総合消化器外科学講座の 臨床教授を拝命して

藤田医科大学 医学部
総合消化器外科学 教授

升森 宏次 (12回生)

この度、2022年10月1日をもちまして医学部総合消化器外科学 臨床教授を拝命いたしました。就任にあたり、ご尽力ならびにこれまでご指導賜りました諸先生方、藤医会の先生方に心より厚く御礼申し上げます。

私は1990年本学を卒業後、丸田守人教授の主宰される消化器外科第4科（下部消化管外科）に入局いたしました。研修終了後、国立東京第二病院（現国立東京医療センター）にてレジデント、帰局後1999年に医学博士を取得。大腸専門医として2008年4月から腹腔鏡手術の技術向上のため、前田耕太郎教授のお力添えで、国内トップクラスの京都大学消化管外科 坂井義治教授の下、1年3か月の国内留学の機会を得ることができました。京都大学のもつオーラに圧倒されながらも、臨床、教育、研究に携わり、当時は少なかったICU、緩和科、感染症科など専門性の高い診療科の確立で、効率的かつ円滑な外科治療のあり方など目の当たりにし驚きの連続でもありました。臨床面では腹腔鏡手術を基礎から学び、厳しいながらも充実した日々の中研鑽を積み、教育面では本学で養われた指導技術、コミュニケーション能力を活かす機会に恵まれ、学生から研修医まで講義を実施・指導した結果、京都大学研修医が選ぶ優秀指導医としてNice Teacher賞を受賞させていただきました。研究面では手術に絡んだdenonvilliers筋膜の膜構造から病理まで、同僚とともに探求するなど貴重な経験を積むことができました。大学へ帰局後は花井恒一教授の下、さらに腹腔鏡手術を極め内視鏡外科技術認定医を取得し、総合消化器外科として再編された後は、宇山一朗教授ご指導の下、ロボット支援下直腸手術も行い、外科医として驕ることなく新たな技術の向上に努めて参りました。

特に教育においては、研修医になって初めて行うスキルラボトレーニングを2012年から8年間担当し、患者様のための真に優秀な研修医の育成に貢献すべく、臨床研修実務委員、外科臨床研修指導医としてレポートの添削・指導の実施、2020年からは藤田医科大学統合外科専門研修プログラム副統括責任者にご推薦いただき、他大学、関連病院の連携施設とタイアップしながら専攻医が外科専門医になるべく協力、指導を行っております。



また、静岡がんセンターにおいて認定看護師教育課程における講義・指導、東海地区での東海ストーマ・リハビリテーション研究会の講師としての講習会実施など、チーム医療の重要性を鑑み、医師のみならず看護師の教育にも注力させていただいております。

今回、須田康一教授ご推挙の下、総合消化器外科に新設された教育担当として、本学園の教育ビジョン「グローバルな新医療人創出拠点へ」その人材育成を目標とする大きなミッションを頂きました。その為の教育プログラムとして 1. Early exposure program: 結紮・縫合セミナー、腹腔鏡用dry-boxトレーニング、da Vinciトレーニング、アニマル実習など早期からの実践 2. Seamless training: da Vinciトレーニングなど常時行える切れ目のないトレーニング 3. 術前術後の管理教育 4. 屋根瓦式教育、この4本柱を設けました。これらを重ね支えてあげる事で、このプログラムで鍛えられた医学生研修医は、手術の準備態勢を早期に整える事が可能となります。そして、診療チームの一員となり、総合消化器外科並びに全診療科の担い手となり、地域医療に貢献できる最高の医療人の育成となる事を目指しております。そのためには、皆様のご協力、ご支援が必要不可欠でございます。今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

易しくはない社会状況が続いておりますが、先生方のご健勝と更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。





医学部 外科・緩和医療学講座の 臨床教授を拝命して

藤田医科大学 医学部
外科・緩和医療学 教授

小出 欣和 (15回生)

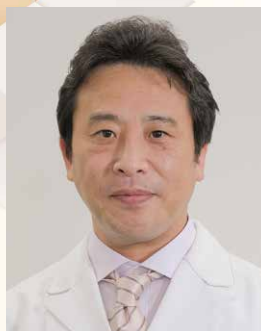
この度、2022年8月1日付で、外科・緩和医療学講座の臨床教授を拝命致しました。藤医会の皆様方には日頃から大変お世話になり誠にありがとうございます。この場をお借りし就任に際し、ご挨拶と自己紹介をさせていただきます。

私は、愛知県出身で、愛知高等高校を卒業し、1992年藤田保健衛生大学を卒業後、同大学病院の研修医を終え、1994年から浜松市にある大腸肛門病専門病院である松田病院へ出張しました。1996年4月より藤田保健衛生大学病院 第IV消化器外科専修医となり、丸田守人教授、前田耕太郎教授の指導の下、主に下部消化管疾患の診療・研究・教育に取り組んで参りました。2003年3月に“大腸sm癌の治療例からのリンパ節転移、遠隔転移および再発に関わる臨床病理学的研究”で医学博士を取得させて頂きました。次の研究では、“下部直腸癌に対する外科治療において、癌根治性と肛門機能温存の両立を目指した、究極の肛門括約筋温存術（括約筋間直腸切除術）の開発に関する研究”に取り組み、患者のQOLの向上を目指した手術手技を開発し実践してきました。また、日本大腸肛門病学会の邦文誌編集委員や、健康保健検討委員に任命され活動しております。2017年4月から、消化器外科講座が編成され、総合消化器外科医局員となり、下部消化管グループに配属され、主に直腸肛門疾患（痔核、裂肛、痔瘻、直腸脱、

直腸瘤、直腸陰嚢など）に対する診療に従事し、若手医師を教育・指導して参りました。2022年4月から、外科・緩和医療学講座に移動となり、臨床教授へ昇進させていただきました。

これまで、20年以上消化器外科医として、診療・研究・教育に携わってきました。診療においては、“メス持った内科医”を目指し、検査、診断、手術治療のみならず、内視鏡治療や薬物治療を習得し実施してきました。また、可能な限り、患者の訴えを傾聴し、“患者が自分の身内だったら”と考え、患者目線に立った対応・診療を行ってきました。今後も、この理念を継続し、緩和医療とは何か、緩和医療学を追求し、癌終末期だけでなく、癌と診断がついたときから、患者とその家族の様々な苦痛（全人的苦痛）を緩和し、寄り添い、患者の残された命・残された時間を、どのように過ごして生きたいのか、多職種の医療スタッフとともに十分に考え、悩み、検討し、患者とその家族が、悔いのない最後を迎えられるように、切磋琢磨していきたいと思えます。最後の診療科の対応によって、今までの診療の是非が問われます、そのことを肝に銘じつつ診療・対応に取り組んで行きます。最後に、若輩者ではありますが、藤医会の皆様方におかれましては今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い致します。





医学部産婦人科学講座の 教授を拝命して

藤田医科大学医学部産婦人科学 講座教授

西澤 春紀 (20回生)

藤医会の諸先生におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、2022年11月1日付をもちまして藤田医科大学医学部産婦人科学講座教授を拝命致しましたので、本紙面をお借りして謹んでご挨拶申し上げます。

私は、1997年に本学医学部を卒業(20回生)すると同時に当産婦人科学教室に入局し、以降、本大学病院およびばんだね病院を中心として、医師および研究者としての研鑽を積んでまいりました。私が入局した当時は、産婦人科学教室二代目となる故河上征治教授が教室を主宰されており、体外受精を中心とした生殖医療の黎明期であったことから生命の神秘や産婦人科医療の奥深さに感嘆しながら、忙しい研修医の日々を過ごしました。その後、三代目となる宇田川康博教授が着任され、婦人科悪性腫瘍における手術手技や化学療法等を系統的に教えていただく一方で、廣田穰教授のご指導の下、低侵襲性治療である内視鏡手術の習得や発展にも注力してまいりました。また、妊娠・出産の基礎から胎児診断、産科救急までの幅広い周産期医療を多田伸教授ならびに関谷隆夫教授から学びながら、地域と一体化した産科医療体制の構築に努めてきました。そして、四代目となる藤井多久磨教授が着任されてからは、ロボット手術やゲノム解析等の先端的医療に取り組みながら後輩の育成にも一貫して取り組んでいます。

産婦人科医として日々の臨床業務に従事する一方で、研修医を終えるとすぐに本学大学院に入学し、周産期疾患を中心とした基礎研究を開始しました。学位取得

後に、時を同じくして採択された21世紀COEプログラム医学分野「超低侵襲標的化診断治療開発センター」へ参画することになり、本学医科学研究センター(旧総合医科学研究所)分子遺伝学部門の倉橋浩樹教授をはじめとする基礎研究部門の先輩よりご指導いただきながら共同研究を展開する等、継続して研究活動にも取り組んでまいりました。ヒトの全遺伝子を含むDNA配列が解読された2003年以降になると、未来に向けた遺伝医療の重要性を認識し、臨床遺伝専門医を取得するとともに、“新型出生前診断”として話題となった母体血による胎児染色体検査や受精卵に対する遺伝子検査である“着床前診断”、遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)に対するリスク低減手術等を新たに臨床導入してきました。また、当大学病院における臨床遺伝科や本学大学院保健学研究科臨床検査学領域「認定遺伝カウンセラー養成課程」の担当スタッフとして遺伝医療の実践や人材育成にも携わっています。

これまで、多くの先生方より専門領域に偏ることなく、産婦人科学にかかわる全領域を学ばせていただくとともに、臨床遺伝学等の幅広い研鑽を積む機会に恵まれましたことは、望外の喜びであると同時に感謝の念に堪えません。今後は、同窓会や関連病院との連携を強化し、産婦人科診療や医学研究を充実させるとともに、次世代を担う卒業生を育成しながら本学の発展に少しでも貢献したいと考えておりますので、藤医会の先生方におかれましては、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



オンデマンド配信のお知らせ

THE Asia Universities Summit 2022やオンデマンド ホームカミングデーのビデオを配信しておりますので、お時間ございましたら、下記URLおよびQRコードで是非、一度アクセスして、ご視聴して頂ければ幸いです。

THE Asia Universities Summit 2022

<https://www.fujita-hu.ac.jp/timeshighereducation.html>



2022 ホームカミングデー

<http://www.fujita-hu.ac.jp/dosokai/homecoming/schedule.html>



開業おめでとう Congratulations on the opening

26回生	瀧田 好一郎	常滑市	医療法人瀧田医院 瀧田医院分院
30回生	河村 直樹	御殿場市	なおメディカルクリニック
30回生	鳥井 淑敬	沼津市	とりい内科クリニック
13回生	吉田 聡	世田谷区	尾山台ファミリークリニック

藤田学園同窓会名簿・藤医会名簿

令和4年度は、藤医会名簿を発刊致しませんので、ご了承ください。

令和5年度(2023年)に藤田学園同窓会名簿を発刊致します。

この名簿は、医学部だけでなく、全学部の名簿になり、5年に一回の発刊です。

最新の全学部の名簿になり、無料配布ではありませんので、是非、ご購入頂けますと幸いです。

また、藤田学園同窓会名簿発刊に際して、確認葉書をお送りしております。

皆様のお手元に届きました確認葉書は、是非、住所情報ご確認とご返信をお願い申し上げます。

西部会・全国会延期のご報告

- 第30回全国私立医科大学同窓会連絡会西部会(久留米大学医学部同窓会主催)

令和4年9月10日(土)開催予定

- 第31回全国私立大学同窓会連絡会全国会(独協医科大学同窓会)

令和4年11月12日(土)開催予定

いずれも、新型コロナウイルス感染拡大禍のため延期になりました。

藤田医科大学医学部創立50周年記念式典・祝賀会

日時 令和5年2月19日(日)

記念式典 午後2時(受付開始 午後1時)

(第1部) 午後2時～3時

(第2部) 午後3時15分～午後5時

会場 名古屋マリオットアソシアホテル 16階

- ・新型コロナウイルス感染拡大第8波の影響を配慮し、祝賀会は中止になりました。
- ・記念式典の案内状は、藤医会理事、クラス代表の先生をはじめとする代表者の方に限定して、藤田医科大学 医学部学務課、藤医会事務局から送らせて頂いております。

藤医会総会・教授就任記念講演会・祝賀会

- ・今回の総会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大第8波を配慮し、藤医会理事、クラス代表の先生をはじめとする代表者の方に限定して、ご案内・連絡をさせていただきます。
- ・記念講演会は、講演当日のビデオ撮影を後日、配信いたします。
- ・祝賀会の開催は控えさせていただきます。

日時 令和5年2月25日(土) 午後4時半～

会場 ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋
28階 クリスタルルーム

藤医会総会：午後4時半～6時

卒業生教授就任記念講演会：午後6時～

- 1 医学部総合消化器外科学 教授 升森 宏次
- 2 医学部外科・緩和医療学 教授 小出 欣和
- 3 医学部産婦人科学 講座教授 西澤 春紀

祝賀会：開催いたしません



藤医会の正・副会長の任期 告示

藤医会の正・副会長の任期(4期目)は、令和4年12月をもって終了します。
次期会長ならびに副会長に立候補される方は、令和5年1月31日(必着)までに、
①略歴、②近影、③立候補趣旨(400字以内)の三点を藤医会事務局にお送りください。
会長の定員は1名、副会長の定員は3名です。これを超える立候補者があった場合は、
令和5年2月総会前までに選挙を行います。選挙の結果を令和3年2月の総会に諮り、総会の承認を得て就任となります。

選挙管理委員長 藤田学園常勤監事 内藤健晴(1回生)

藤医会事務局

住所 〒470-1192 愛知県豊明市杣掛町田楽ヶ窪1番地98 藤田医科大学2号館 2階
一般社団法人 藤医会(藤田医科大学医学部同窓会)

電話 ①藤田医科大学2号館 2階 藤医会室 0562-93-4025(月・水・木 午後2時～4時30分)
②藤田医科大学2号館 14階 管理室 0562-93-2794(月～金：午前10時～午後3時30分)

FAX 0562-93-4021